

実践報告

## オーストラリア語学研修報告

A Report on English Learning Program in Australia 2013

池田和弘\*・小森三恵\*

IKEDA Kazuhiro・KOMORI Mie

A two-week overseas English program for freshmen was held in Gold Coast, Australia, with the aim of helping students learn how to communicate effectively through both formal learning and real life experience, and also gain a global perspective in a multicultural society. Strengthening motivation to learn English was another aim, which was expected to result from achieving the two aims mentioned above. Six students participated in the program, which incorporated a general English program at Griffith English Language Institute, off-campus career programs, and homestay. Through interviews and reports after the program we have found that all three aims have been achieved. The feedback from the students is to be studied closely to improve the quality of the EFL education at our university.

キーワード：海外語学研修 (overseas English program), 異文化間コミュニケーション (intercultural communication), グローバルな視点 (global perspectives)

### 1. はじめに

英語は言語であり、言語の基本的な働きは口頭コミュニケーションの手段であると考えられる。その能力を養うには、対象とする言語が使用されている生活空間に長期にわたって身を置き、五感を使って学ぶことが理想的である。しかし、だれもがこのような学習をできるわけではない。ここに、「短期海外語学研修」という学習方略の意義が生じる。「短期海外語学研修」には、短期であるために学習の質・量において多くの制約があるが、それがゆえに学習者の内部において様々な“欠乏”が生まれ、その後の学習に良い影響を与えられられる。

また、「短期海外語学研修」は、英語を国内で「外国語」として習得させる教育、すなわち TEFL (Teaching English as a Foreign Language) の指導方略・学習方略の高度化にも直結している。

これらの観点から、国際交流学部では必修科目として「海外語学研修Ⅰ」を設けており、2週間のオーストラリア研修を実施している。この科目の目的は、次の3点である。(1) 英語が社会生活における主たるコミュニケーション手段として使用されている環境に身を置くことにより、効果的なコミュニケーションの有り方について学ぶこと、(2) 多文化社会の実相に触れる事により、「グローバルな視点とは何か」について考える機会を与え、国内外を問わず、自らを取り巻くすべての事象についてより深い洞察を行うことのできる能力を養うきっかけとすること、(3) 上記2点の達成により、英語を学ぶ動機付けを行うこと、である。

「海外語学研修Ⅰ」は、開講時期を1年次夏期に設定している。その理由は、学生達が(1) 大学での生活に一定レベルまで慣れる、(2) 学生間でチームワークが可能な一定レベルの人間関係を構築する、および(3) 海外での生活において最低限必要であると思われる英語表現を習得する、といった要件を満たすには最低3か

\*大阪観光大学国際交流学部

月かかると判断したためである。その上でなるべく早い段階に、実体験として英語がコミュニケーションの手段であることを学生に理解させることが、言葉を習得する上で重要なステップとなると考えられた。

加えて、早期のうちに短期留学を実施すると、学生は実生活の中で五感を使って学ぶ直接的・動的な学習と、大学の授業における間接的・静的な学習の間に必然的に存在する相違点に敏感に気付くことになるため、そこからのフィードバックを早い段階で授業に反映させることができ、より充実した TEFL を実現することが可能になる。

## 2. 研修概要

### (1) 研修期間

2013年8月9日～2013年8月22日。

### (2) 研修先

主な研修先は、グリフィス大学付属英語学校(Griffith English Language Institute ; GELI)であった。また、キャリア関連プログラムとして、(1) ゴールドコースト観光局 (Gold Coast Tourism Corporation)、(2) アビエーション・オーストラリア (Aviation Australia)、(3) ソフィテル・ブロードビーチ (Sofitel Broadbeach) にて研修を行った。

参加学生の研修地での宿泊はすべて、ゴールドコースト市内の家庭でのホームステイであった。

### (3) 参加者

本研修の参加者は国際交流学部1年生6名であった。同学部専任教員2名が交替で(前半8月9日～15日、後半8月14～22日)、1名ずつ学生の引率にあたった。

### (4) 研修内容

研修日程と内容を表-1に示す。本研修は主に、(1) GELIにおける英語プログラム、(2) 学外施設におけるキャリア関連プログラム、(3) GELI あっせん家庭におけるホームステイにより構成されていた。それぞれの詳細な研修内容については次章で報告する。

## 3. 研修報告

### (1) 英語プログラム

GELI (ゴールドコースト・キャンパス) での英語プ

ログラムは、研修期間中の平日午前8時15分から12時45分(途中、午前10時15分から10時45分まで休憩)に実施された。授業はGELIの女性教員1名が担当し、本学からの参加学生6名のクローズクラスで開講された。

授業内容は、英語コミュニケーションを中心としてすすめられ、学生の質問に応じて適宜、語彙や文法の補足説明も行われていた。授業初日にレベルチェックテストが実施されており、参加学生は授業内の課題の難易度は適切であると感じたと報告している。

また授業では、ゴールドコースト市の観光スポットについて各自で調査・紹介するプレゼンテーション課題や、ホテルでの接客場面を想定したロールプレイングなども用いられた。これらは、キャリア関連プログラムの研修内容と連携させるねらいがあったと考えられる。

参加学生への聞き取り調査においては、授業内での母語使用には少額の罰金が科せられており、一定の緊張感を持って授業に臨めたことが報告された。なお、徴収された罰金によって、担当教員から菓子や軽食がふるまわれ学生に還元された。

### (2) キャリア関連プログラム

本研修では、英語プログラムに加えて、主に観光に関わるビジネス領域において、キャリア関連プログラムが設定された。

#### 1) ゴールドコースト観光局

ゴールドコースト市ブロードビーチ地区のオフィスにて、David Cox氏(Manager Australia Marketing)によるプレゼンテーションを聴講した。テーマはゴールドコースト市の観光政策についてであった。同市を訪れる観光客はオーストラリア国内、ニュージーランド、日本の順で多く、これまではこれらの地域を重点的なターゲットとしたマーケティングを行ってきた。しかしながら2011年にニュージーランド、日本が相次いで地震の被害を受けたことから、同市の観光も大きな打撃を受けた。そのため、近年は特定の国へと依存しない方針に転換し、中国、ヨーロッパ、アメリカなどの広い地域をターゲットとしたマーケティングを展開しているとの説明があった。

学生は、英語プログラムの授業内で事前にゴールドコースト市の観光資源についてリサーチをしており、質問セッションではそれらの観光スポットや、さらに州内の大学についての質疑応答が英語でなされた。

なお、ゴールドコースト市では現在、路面電車の工事

が進められており、来年度サーファーズパラダイス地区とグリフィス大学、テーマパーク地区とを結ぶ路線が開通する予定である。地域住民のみならず観光客にとっての利便性が高まるためその経済効果が期待されている。現在はあちらこちらが工事中で不便だが、Cox 氏は“Short-time pain, long-time gain”とプレゼンテーションを結んだ。

## 2) アビエーション・オーストラリア

研修 8 日目の午前は英語プログラム授業に代わり、ブリスベン国際空港に隣接するアビエーション・オーストラリア (ブリスベン・キャンパス) での研修を行った。この機関は 2001 年にクイーンズランド州政府によって設立され、航空機の整備エンジニアと客室乗務員の訓練課程に加え、これらに関わる専門的な英語を習得するための研修課程を擁する。

参加学生は、まずエンジニア課程の教官からの説明を受け、航空機やヘリコプターの整備訓練施設内で実機およびシミュレータ等の設備や、エンジン、プロペラなどの部品の実物を間近に見学した (写真-1)。ある学生は実習生が扱う工具の種類の多さに驚いたと報告しており、複雑かつ緻密な航空工学の世界の入り口を体験することができたようである。

続いて、客室乗務員課程の教官の案内によりプールでの避難用ラフトや客室シミュレータでの訓練の様子を見学した。この課程の研修生は、民間航空会社から受け入れている客室乗務員の卵たちである。Simon McNair 氏 (Team Leader, Cabin Crew Training) によると、客室乗務員には接客の技術などスキル面も必要のだが、それよりもホスピタリティなどの精神面が重視されるとのことである。

## 3) ソフィテル・ブロードビーチ

ゴールドコースト市ブロードビーチ地区にある 5 つ星ホテルのひとつ、ソフィテルにて研修を行った (写真-2)。Rebecca Herriot 氏 (Conference and Catering Manager) の案内により、客室、レストラン、会議室、パーティールーム、プール、カジノなどの施設を見学した。さらに、通常宿泊客には公開されない VIP 用特別室やキッチン、パティスリー、スタッフ用の通路や休憩室、オフィスなどのバックヤードを体験した。

学生の気づきにおいては、バックヤードのあちこちに鏡が設置され、表に出る前には必ず身だしなみをチェックすることがスタッフに徹底されている点があげられており、一流ホテルで求められるプロ意識の高さを感じとったようである。同時に、バックヤードではもっとピリ

ピリとしているのではないかという日本企業の一般的イメージとは対照的に、ソフィテルでは休憩・待機しているスタッフが、非常に友好的に学生たちを歓迎してくれたことが印象に残ったと報告されている。これらの報告から、ホテル業界というグローバルな職場で求められる意識や態度に対する学生の関心の芽生えが伺える。

## (3) ホームステイ

研修期間中、参加学生はゴールドコースト市内の家庭でホームステイを経験した。ステイ先の家庭はすべて、BISS (Brisbane International Students Services) を通じて GELI からのあっせんを受けていた。

学生の研修報告レポートにおいて、複数の学生に共通した異文化体験として観察されたのは、(1) 水が貴重な資源として認識されていること、(2) 多文化国家として「外国人」という意識の垣根が低いこと、(3) 個人の行動の自由や自立性が尊重されていることであった。その他、チェス・クリケットなどの子どもの遊びの種類や、食事のバリエーション・温度などの食文化における日豪間の違いが実感を伴う発見として指摘された。

## 4. おわりに

以上のように、参加学生 6 名は 14 日間の海外語学研修を通じて、前期の学修で培った英語コミュニケーション能力を実践しながら異文化交流を行った。学生たちは、英語コミュニケーションが必須である多文化社会に身を置くことによって、英語習熟にむけた学習意欲を高め、異文化理解に必要な態度への気づきが促された。以下の記述は、ある学生の研修報告レポートからの引用である。

いざオーストラリアでホームステイ生活を始めてみると、意外にも楽しくて上手には話せないけど意思疎通ができることに高揚した。さらに日に日に英語がうまくなっていくような気がして自信がついたように思う。そしてホームステイで直にオーストラリアでの暮らしや生活を送ることによっていろいろなるものを今までとは違う視点から見ることができた。

このように、本プログラムを通して学生たちは英語学習へのモチベーションを高め、グローバル社会における異文化間コミュニケーション能力および多角的視点の重要性を、体感を持って理解したことが推察される。

当初この研修を計画したときのねらい通り、直接的・動的学習体験をしたことによって、学生の英語に対する認識には明らかな変化が見られた。第一には、伝えたいことがあっても、語彙や表現の知識が足りないために出来なかったという体験から、知的欠乏感が増した。第二に、間接的・静的学習にある種の物足りなさがあることを明確に意識しはじめ、さらに、それを伝えようとするようになった。

また、その結果として、海外語学研修は1年次後期の授業の内容・組立てにリアルタイムで影響を及ぼし始めている。

人間の行動パターンには規則性があり、ある程度予測と対応が可能であるが、「授業」という枠の中で、複数の学生の要求に応えるには、学習の個別化と学習の協働化という矛盾する2つの方略を効果的に両立させなければならない。

その実現のため、国際交流学部では英語科目を実施する教室において、学生各自に対して、21インチのワイドモニターを置いた状態で、白板を見ながらノートを取ったり、他の学生の発表を見たりすることのできる形状とスペースを持つ机を与えている。

前期においても、その環境を活用して個別学習の要素を授業に組み込んでいたが、後期授業ではそれをさらに高度化し、学生自らが習得したいと考える表現や語彙をリスト化して個別に訓練し、教室の前で発表するようなスキームを実施している。

協働については、1年次前期においては単純なペアワークを実施するのみであったが、1年次後期からは3人以上のチームで調査を行い、プレゼンや質疑応答といった言語活動を強化していきたいと考えている。

また、一方で、上記の2つの学習とは全く異なる、「こちらから強いる学習」も継続していく予定である。その理由は、学生の望むものばかりを与えると、重要でありながら、欠落してくる知識が生まれるリスクがあるためである。特に、文法や書き言葉（および、そこに含まれる語彙）がこれに当たる。学生たちが直接的・動的学習を体験したからこそ、これらの学習に対する動機付けは行いやすいと考える。

次年度以降の海外語学研修の展望として、まず、1年次においては、2013年度と同じく夏期休暇期間にオーストラリアのグリフィス大学ゴールドコースト校の附属語学学校において2週間の短期留学を実施する。今後、海外研修における学生自身の積極的な学びの動機付けを高めるために、さらに工夫を重ねていく必要があるだ

う。

例えば、2013年度においては、各研修先で「なぜホテル（航空・観光）業界について学んでいるのか」と質問され、学生が戸惑う場面も見られた。国際交流学部のカリキュラムは英語プログラムが中心であることから、学生のアイデンティティとして、専攻は英語（コミュニケーション）であるという意識が強い。さらに、同学部の1年次のキャリア教育においては業界を限定しない指導が行われていることもあり、本学の名称“Osaka University of Tourism”からイメージされる学生の志向と参加学生のそれとの間にギャップが生じてしまったと推測される。

限られた研修期間内で、学生の自主的な発見や洞察を十分に促すためには、研修内容が学生の関心やニーズに合致するように受け入れ側とさらに綿密な調整を重ねる必要性が感じられた。同時に事前指導を行い、「特定の業界の裏側を見学する」という意識ではなく、「グローバルな職場で働く現状や意義を学ぶ」という意識で臨めるようにキャリア・プログラム研修を位置付けておくことが望ましいと考える。

また、2年次の学生に対しては、現在のところマレーシアやハワイなどの研修候補地を検討中である。多文化を擁するこれらの社会において、異文化間コミュニケーション能力をさらに深める。ただし、2年次以降の海外語学研修は任意の参加となる。

さらに、短期だけでなく長期の留学に対しても国際交流学部でのサポート体制の整備をすすめる。滞在する地域についても広く候補地を検討し、選択肢を広げていく予定である。

しかしながら、留学は経済的な面での負担がどうしても無視できないため、その選択肢を実際に取れる学生は多くはないと考えられる。従って、1年次必修科目である「海外語学研修Ⅰ」における直接的・動的学習からのフィードバックを踏まえて、授業を精密にデザイン・実施し、つねに学生と対話を続けながら修正をかけ、海外研修と国内における授業のベストミックスを実現していきたいと考える。

**【引用・参考文献】**

研修先のサイト一覧

- 1) Griffith English Language Institute.  
<http://www144.griffith.edu.au/>
- 2) Gold Coast Tourism Corporation  
<http://www.visitgoldcoast.com/>

- 3) Aviation Australia  
<http://www.aviationaustralia.aero/>
- 4) Sofitel Broadbeach  
<http://www.sofitelgoldcoast.com.au/>

表-1 オーストラリア語学研修概要

日時	研修場所	内容
8月9日 (金) 20:25	移動	関西空港より空路ゴールドコーストへ (ケアンズ経由) 機内泊
8月10日 (土) 13:15 15:15-17:30	移動 GELI	ゴールドコースト空港着 オリエンテーション、ホストファミリーと対面
8月11日 (日) 終日		自由行動
8月12日 (月) 08:15-12:45 午後	GELI	オリエンテーション、レベルチェックテスト 大学構内で自習 (自由行動)
8月13日 (火) 08:15-12:45 午後	GELI	英語プログラム (10:15-10:45 休憩) 大学構内で自習 (自由行動)
8月14日 (水) 08:15-12:45 午後	GELI	英語プログラム (10:15-10:45 休憩) グリフィス大の学生との交流プログラム
8月15日 (木) 08:15-12:45 13:30-15:00	GELI ゴールドコースト観光局	英語プログラム (10:15-10:45 休憩) プレゼンテーション聴講
8月16日 (金) 08:15-12:45 13:00-15:00	Aviation Australia DFO Brisbane	航空専門研修施設見学 ショッピングモールにて昼食、買い物
8月17日 (土) 09:00-16:00	サーファーズ パラダイス	グループ行動 (GELI 集合・解散、現地にて教員の出欠確認)
8月18日 (日) 終日		自由行動
8月19日 (月) 08:15-12:45 13:30-15:00	GELI Sofitel	英語プログラム (10:15-10:45 休憩) バックヤード見学
8月20日 (火) 08:15-12:45 午後	GELI	英語プログラム (10:15-10:45 休憩) 大学構内で自習 (自由行動)
8月21日 (水) 08:15-12:45 14:00-16:00	GELI	卒業式、パーティ準備 卒業式・フェアウェルパーティ
8月22日 (木) 08:00 19:10	移動	ゴールドコーストより空路大阪へ (ケアンズ経由) 関西空港着、解散



写真-1 アビエーション・オーストラリアでの研修風景



写真-2 ソフィテル・ブロードビーチのスタッフと